



蕉門句解 口傳書 四ノ巻

蕉翁正雅二百首ハ 彦石ニ至リ 常平ハ  
口傳ニシテ 詠得ト云ハ 為小ニ水ニ 後ナク  
フ 彦翁ノ 吟を 權ニ 一ニハ あり 蕉翁ハ  
吟ニ 本ニ 下ニ 意ニ 一ニ 天和 自ら 享ニ 二ニ 編 筆ノ  
分 4 門 廻ル 事 あり 一ニ 細心 在 人 事 也 一ニ  
衆ノ 吟 あり 一ニ あり 一ニ 是 筆ノ 吟 也  
一ニ あり 一ニ あり 一ニ あり 一ニ あり 一ニ あり  
一ニ あり 一ニ あり 一ニ あり 一ニ あり 一ニ あり



くつれをさきごうなほしつる道通うし  
とよのこしと例み語解をわたり記を  
きつ習しの導むく端やしくねるうき  
まきんかひんか二二言ふしく止る録を  
信情くけいひるあふ

正凡夕解

正雅之白草

ま

道とまふまふ信智のそひ便

柑子ヲ拾ヒ云「此まの信智ニ記人幸後ヲ傳ハ味キヤ新柑子」  
ち此トイハはとら主ノ信智藤堂家ヲ忘レヤシ

いくらふ子んてん家のねかす

一町之死ノ迅速ナルヲ示シ

まきくや 積るるやま 信の如

六宗一権頼ノ事心積ラ云是もあそ師ノ七様ノ分ト及云へし  
武ハ早々子ノ吟トス知レは季ノ約ニカハラス四半且丸ヨし  
武ハ昔正保元年申ノ年ノ生レタル故ト云是ハウカレ

久日小田毎の日を 送下り給

日ノ送下り行ヲ云 萬ヲレトテ人情

誰々々々 姿々々 何々々 々々々の意

不云不淡 自ら作ニカマカシ 佳人ト云々也

登夕々々 々々々 五五五 六六六の意

登夕々々 初春トス 初ヲ弄フノ意

いぬ人、廿五々々 一五五 六六六の意

治平ノ代所ニ 思人ナシト云 人任道徳ノ徳士アリ 然ルレバ 行カシムル心ナリ

と々々々 新年ぬえん 米五五

似合シヤトモアリ 昔道徳ノ一と云物

大津屋の字の何れい 何佛

一々々々 是ニ 世ニ交ラレル志ニ 世ヲ弄物トス

昔々弱ふ 々々々 々々々 々々々

拾遺物カ 昨ツ見レハ 春ノ第ニケリ 昔ツラ コミマ組マ

五々々々 九〇〇 即山

春意 寒トモ暖トモ 詞ヲ不登也 餘意勿ク

い々い々 々々 々々 極の意

細事ヲ是レ也 ヤ切カトモ 切ニ非レテ 味ス

物々々 々の 々の 山

伊賀ノ山路ノ 崎 作 命ノ 意

引ノ 或ノ 意

春七湖 （一） 子 （二） の （三） 子 （四） 日 （五） と （六） 物

（一） 月 （二） 言 （三） 了 （四） 人 （五） 凡 （六） 院 （七） 四 （八） 羅 （九） 三 （十） 具 （十一） 三 （十二） 二 （十三） 七 （十四） 八 （十五） 六 （十六） 五 （十七） 四 （十八） 三 （十九） 二 （二十） 一

極 （一） 心 （二） 一 （三） 子 （四） の （五） 子 （六） や （七） 新 （八） を （九） 望 （十） せ （十一） ぬ （十二） 一

（一） 馬 （二） 赤 （三） 汗 （四） 言 （五） ア （六） イ （七） サ （八） ツ （九） ノ （十） 所 （十一） 今 （十二） 井 （十三） 底 （十四） 徒 （十五） 留 （十六） ス （十七） マ （十八） 是 （十九） 日

物 （一） の （二） 名 （三） 言 （四） 出 （五） の （六） 名 （七） の （八） とき （九） け

（一） 物 （二） の （三） 名 （四） 言 （五） 出 （六） の （七） 名 （八） の （九） とき （十） け （十一） 今 （十二） 井 （十三） 底 （十四） 徒 （十五） 留 （十六） ス （十七） マ （十八） 是 （十九） 日

山 （一） の （二） 名 （三） 言 （四） 出 （五） の （六） 名 （七） の （八） とき （九） け

（一） 山 （二） の （三） 名 （四） 言 （五） 出 （六） の （七） 名 （八） の （九） とき （十） け （十一） 今 （十二） 井 （十三） 底 （十四） 徒 （十五） 留 （十六） ス （十七） マ （十八） 是 （十九） 日

香 （一） け （二） 白 （三） へ （四） へ （五） へ （六） へ （七） へ （八） へ （九） へ （十） へ （十一） へ （十二） へ （十三） へ （十四） へ （十五） へ （十六） へ （十七） へ （十八） へ （十九） へ （二十） へ

（一） 香 （二） け （三） 白 （四） へ （五） へ （六） へ （七） へ （八） へ （九） へ （十） へ （十一） へ （十二） へ （十三） へ （十四） へ （十五） へ （十六） へ （十七） へ （十八） へ （十九） へ （二十） へ

子 （一） の （二） 名 （三） 言 （四） 出 （五） の （六） 名 （七） の （八） とき （九） け

（一） 子 （二） の （三） 名 （四） 言 （五） 出 （六） の （七） 名 （八） の （九） とき （十） け （十一） 今 （十二） 井 （十三） 底 （十四） 徒 （十五） 留 （十六） ス （十七） マ （十八） 是 （十九） 日

不 （一） 性 （二） 言 （三） 出 （四） の （五） 名 （六） の （七） とき （八） け

（一） 不 （二） 性 （三） 言 （四） 出 （五） の （六） 名 （七） の （八） とき （九） け （十） 今 （十一） 井 （十二） 底 （十三） 徒 （十四） 留 （十五） ス （十六） マ （十七） 是 （十八） 日

ハ （一） 九 （二） 月 （三） 言 （四） 出 （五） の （六） 名 （七） の （八） とき （九） け

（一） ハ （二） 九 （三） 月 （四） 言 （五） 出 （六） の （七） 名 （八） の （九） とき （十） け （十一） 今 （十二） 井 （十三） 底 （十四） 徒 （十五） 留 （十六） ス （十七） マ （十八） 是 （十九） 日

と （一） 水 （二） の （三） 名 （四） 言 （五） 出 （六） の （七） 名 （八） の （九） とき （十） け

（一） と （二） 水 （三） の （四） 名 （五） 言 （六） 出 （七） の （八） 名 （九） の （十） とき （十一） け （十二） 今 （十三） 井 （十四） 底 （十五） 徒 （十六） 留 （十七） ス （十八） マ （十九） 是 （二十） 日

と （一） 水 （二） の （三） 名 （四） 言 （五） 出 （六） の （七） 名 （八） の （九） とき （十） け

（一） と （二） 水 （三） の （四） 名 （五） 言 （六） 出 （七） の （八） 名 （九） の （十） とき （十一） け （十二） 今 （十三） 井 （十四） 底 （十五） 徒 （十六） 留 （十七） ス （十八） マ （十九） 是 （二十） 日

かきくまぬ ことばをば 乃梅様

梅様御返事よらん

うけろふや 紫胡の原の うね

先多御目ノ行ノ病ヲ云フ老杜ノ意

花のまを 流川 上野、沢平

東都景道心ヲ醫カスヲ云フ

とてさうり 山ハリ 泣の経所

芦野ノ吹如春別テハ常トスル人情

ねんく ねんく 神の歌

昌城ノ吹花ト云フ素と感

幸い 松ハ ねんく ねんく

松ノ松ヲテ石橋還テテ松ノ吹 ねんく

四ツ上 松の ねんく 心下

上野ノ松ニ帯テカハノ側ノ松路ニテト前までアリ 自ら ねんく

一里ハ ねんく のり ねんく

南都ハ多松ヲ遣カレシ松屋ニ帯臣ノ松ノ事 ねんく

花も ねんく ねんく や ねんく

差野行所ニ万葉集ニ新し玉ノ詞ト云フ ねんく ねんく

さし ねんく の ねんく

梅木事也 詞ニ出テテニ後ニ人ヲ知ル

世あり 推せよ 美子 五思 一具

東行 西行 分書 秋早 世の中

何の本 の 白

何事ノヲ記スルハ 何事ノヲ記スルハ 何事ノヲ記スルハ

美子 五思 一具

美子 五思 一具

美子 五思 一具

美子 五思 一具

美子 五思 一具

美子 五思 一具

美子 五思 一具

美子 五思 一具

美子 五思 一具

美子 五思 一具

美子 五思 一具

美子 五思 一具

美子 五思 一具

美子 五思 一具

美子 五思 一具

美子 五思 一具

命 及び 中 へ 流 して 行く こと

廿五年ノ絶ラシク人ヲ送ラト前ノ流カレ 命也

世 不 可 及 ン 地 之 心 志 傳 ト 其 心

其 心 志 傳 人 中 傳 斗 コ 其 心 志 傳

い へ ば 母 の 心 の 山 々 々

其ノ心はとて絶トテ人トテ其ノ心 止ラシ

雲 々 々 奴 我 人 々 々 誰 知 ノ 心 也

世 前 ノ 負 山 人 コ ス ク レ ラ ン 母 心 志 傳 遠 々 感 心

誰 知 ノ 心 也 白 白 白 白 白 白 一 寸

其ノ心はとて絶トテ人トテ其ノ心 止ラシ

其 心 志 傳 人 中 傳 斗 コ 其 心 志 傳

其ノ心はとて絶トテ人トテ其ノ心 止ラシ

い へ ば 母 の 心 の 山 々 々

其ノ心はとて絶トテ人トテ其ノ心 止ラシ

母 中 心 物 々 々 心 志 傳 人 中 傳 斗

其ノ心はとて絶トテ人トテ其ノ心 止ラシ

い へ ば 母 の 心 の 山 々 々

其ノ心はとて絶トテ人トテ其ノ心 止ラシ

誰 知 ノ 心 也 白 白 白 白 白 白 一 寸

其ノ心はとて絶トテ人トテ其ノ心 止ラシ



疎の飛 ぐうく 明申のり陰

唯作の作新中ノ体

多にや 無形はも 水あき

自方子ノ初門人此時ニ修マシテ身ヲ圓ラト云 勿解別作

遠くよ ありやう下の ありのあり

或ハ生トテ論テハ 羽品知汝ニテノ時セ 聲は 席ハマトニ月ニ  
らなヲ求レシ也 勿ル能クヒマカ下ニ時ク 徒尊ガニアハ 我意ニマシ

初の手書 空の 飛ぶる うらむる

子ガゴトニサニ子ナシト在人ノ作ヲ思フ也

初のうき さいとま 国の 影 日

空也ト云テト不空ニ論テモ 吾然ノ作

何とリ 何とリ 何とリ 何とリ

山歌来テ人ニ示ナル 考凡ク空歌帳解スレト道ナシ

高き 高き 高き 高き

高キト作ニ 高キヲ生別トス 道志ニ高キノ高キ

在り 在り 在り 在り

表叙ノ叙ノ作ニ合シノ用ニヤ 四悟信也

とん 折しとん 折しとん

何処ニ至ルヤ 月以 登ルシ 人々、アサツノミ

本その 情 高き 生れ 高き 高き

高キ仲ノアヲをセキリ生シ 信云ノ情剛ナク 高キ

暮知り 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら

夕陽の影を 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら

伊は 生ケル 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら

伊は 山家ノテト 生 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら

山崎の 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら

西行の 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら

暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら

西行の 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら

暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら

西行の 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら

暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら

西行の 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら

暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら

西行の 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら

暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら

西行の 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら

暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら

西行の 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら

暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら

西行の 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら 暮ら

神也 也 七 け け 澄 船 本 係

伊弉諾ニテトアノ是年常風連ノ心  
全書第ニ神也ノイタリト思フトキリタ人ナク思フニテトア又証ナリ

袖 之 長 之 四 指 之 兩 士 之 階 之 也

御之階ノイタリトキリトキリ又文レ

之 之 長 之 續 之 也 之 之 階 之 也

負心ヲ悔心

富 之 也 之 之 階 之 也 之 之 階 之 也

富川ノ階ヲ出入レタリトキリトキリ

正 凡 夕 解

篇 之 五 吟

夏

之 之 階 之 也 之 之 階 之 也 之 之 階 之 也

旅中吟自始ノ夕旅人界ノ階也

之 之 階 之 也 之 之 階 之 也 之 之 階 之 也

日克山ノ吟ニ杜詩ノ云フ日月ヲ垂ニ見ルノ西表ヲ云

之 之 階 之 也 之 之 階 之 也 之 之 階 之 也

吟々西風ヨシ民人ノ苦チキヲヨロコブ

河ノ幸 小舟 笛 舟 舟 舟

舟ノ幸 舟ノ幸 舟ノ幸 舟ノ幸 舟ノ幸

舟ノ幸 舟ノ幸 舟ノ幸 舟ノ幸 舟ノ幸

舟ノ幸 舟ノ幸 舟ノ幸 舟ノ幸 舟ノ幸

舟ノ幸 舟ノ幸 舟ノ幸 舟ノ幸 舟ノ幸

舟ノ幸 舟ノ幸 舟ノ幸 舟ノ幸 舟ノ幸

舟ノ幸 舟ノ幸 舟ノ幸 舟ノ幸 舟ノ幸

舟ノ幸 舟ノ幸 舟ノ幸 舟ノ幸 舟ノ幸

舟ノ幸 舟ノ幸 舟ノ幸 舟ノ幸 舟ノ幸

舟ノ幸 舟ノ幸 舟ノ幸 舟ノ幸 舟ノ幸

舟ノ幸 舟ノ幸 舟ノ幸 舟ノ幸 舟ノ幸

舟ノ幸 舟ノ幸 舟ノ幸 舟ノ幸 舟ノ幸

舟ノ幸 舟ノ幸 舟ノ幸 舟ノ幸 舟ノ幸

舟ノ幸

舟ノ幸 舟ノ幸 舟ノ幸 舟ノ幸 舟ノ幸

舟ノ幸 舟ノ幸 舟ノ幸 舟ノ幸 舟ノ幸

舟ノ幸 舟ノ幸 舟ノ幸 舟ノ幸 舟ノ幸

舟ノ幸 舟ノ幸 舟ノ幸 舟ノ幸 舟ノ幸

舟ノ幸 舟ノ幸 舟ノ幸 舟ノ幸 舟ノ幸

舟ノ幸 舟ノ幸 舟ノ幸 舟ノ幸 舟ノ幸

る銀 ち竹原 此 ところ 川下

川底に石の馬し 堂の類 庵の口サレ

かきくは つかくは 少なき 周りに

物に 縁のつたカアレンマフ

る里 ありきり けりて 井の下 湧き

ノ、喜とやいふの 初ら 縁の 徳化のくも也

都と びや 土下人のあつた人多

まんの 早ナニ水ソ、ギメラシカラニアルの 直ラニウノ

おとどと びや ぬす びや ぬす

不ト一同念の金、ゆ也 びや 惚惚、説

うさおとさむー せよ びんこそ

西行の 守りきり 守り びん、と 枝アリ

所士の 叙 ちつて せよ びん びん

叙せ、人ヲ 湯種、と 是レ 権長抄 由良、次々 會々 飯心

善んや 水 砕 せよ びん

歩向、無脈、名心 言志、ト 述丁 凡後

思ふくく せよ びん

上文字、お 奥、佛 經ノ 理

形凡の 水 ぬす びん

心身、山向、の 風ニ 浸ス、ロ、の 湯、ま

くさ人の旗も 鳴らぬ者の煙

志の吹のこころありキタナクマシキヲモ思フヘト也

ささるるまのりや おーし思ふ程

幸ク此ヲ招き昔ソウラスを誦ラセし時

日一夜うらゝ 去りて 御下

西行の道へノ稱し呼ウレ延種と云 御下ナリテ

せそ旗も 竹のさのりあり

左澤屋ノ道ニノ方 一年以上ノ毎夜ノ人聞ノ奇を 田ノスナク馬ノ如し

此はくさまゝ 乃れぬさ 去るる

是ノ字 東門を修ム事 アレナトノ何ナド妙

ささるる水や 去りて 去るの細

日取家ニ列セズ 仁志ノ心算ニ到リ

ささるる水や 去るの細

是トカタナ十日ヲ云フ心 物ノ悔しリガ多シ 思ハシナド

ささるる水や 去るの細

ささるる水や 去るの細

ささるる水や 去るの細

ささるる水や 去るの細

ささるる水や 去るの細

ケルノ程ナリト云レ意シヤク 程ヨシト云レ意シヤク

まき草の 花のしら 花のしら

まき草の花のしら 花のしら 花のしら

石の音や 石の音や 石の音や

石の音や 石の音や 石の音や

若くしや 若くしや 若くしや

若くしや 若くしや 若くしや

矢張りや 山を山州の 山を山州の

矢張りや 山を山州の 山を山州の

くまの穂を ちりちりちり ちりちり

くまの穂を ちりちりちり ちりちり

小庭のまゝに 池沿うらん 池沿うらん

小庭のまゝに 池沿うらん 池沿うらん

橋や 花のまゝに 花のまゝに

橋や 花のまゝに 花のまゝに

象沼隈 雨や 雨施、全歌の歌

象沼隈 雨や 雨施、全歌の歌

旅人のらんも 旅人のらんも

旅人のらんも 旅人のらんも

水郷の 人のらんも 人のらんも

水郷の 人のらんも 人のらんも

くく ちやぬ ぐーまゝ ぐく じ 評のむ

人聞有るや

田くや ちやぬ ぐーまゝ ぐく じ のむ

山形飲まぬや ぐく じ 境 田家 ぐく

増産を ぐく じ のむ ぐく じ のむ

以石 田家 ぐく じ のむ ぐく じ のむ

るの月 山油 ぐく じ のむ 赤河や

程ヲ云ヒテ マト云ヒタル ぐく じ

六月や ぐく じ のむ ぐく じ のむ

六月 舞 ぐく じ のむ ぐく じ のむ

風の歌 ぐく じ のむ ぐく じ のむ

芝草ヲ ぐく じ のむ ぐく じ のむ

くく じ のむ ぐく じ のむ ぐく じ のむ

小柳 ぐく じ のむ ぐく じ のむ

ぐく じ のむ ぐく じ のむ ぐく じ のむ

水ヲ ぐく じ のむ ぐく じ のむ

山陰や ぐく じ のむ ぐく じ のむ

是ニ 東門 ぐく じ のむ ぐく じ のむ

ふく じ のむ ぐく じ のむ ぐく じ のむ

老 變 得 意 新



ゆくゆくも 年が過ぎ 涼しく 暮る

道江遠門のり貸し事編ありし終る時

夕暮の白り夜の終業中 御宿と云

旅銀の明

ゆわくや 秋のゆくくのゆくへ

秋意

編下レ一の事トリまいたし秋のゆくこ、まこつゆ  
まの事秋の分せし目こ餘り秋のまよし

ゆわくや 秋のゆくくのゆくへ

此年長き月ノ次

ゆわくノ次

あまのこゝろ 小のゆく、上の能の情

水造ノサミま一辰をうて能ト歌レノ意

松の白り いろはの人を弾とらん

人情の事系珠ヲ歌フ也

湯の白り としとく せんと せん

君よに泡下ラ遠カラ 物見ラ感ラナス

あつとくを 秋のゆくを 雲の上

雲の上の事 日暮 高口流の云

城の白り 古井の清水 之向

此年山に向懐心を發テ向ラる意

雲のゆくを 雲のゆくを 雲の上

晋御所ヲ表ト歌アリ 古新ノ好ラ不ラ見レ入レ

さしやゆのこゝの月影

内函巻 巻首ノ巻物

涼しき夜 秋夜ありては 涼しき夜

回フリツルアテ 伴ハス女服ノ際サレナキヲ見ヨ

此のころ 月さへゆるもの 涼しき

十八巻ノ巻ノ夕情ヲ註中ニ記セ

涼しき夜 秋夜ありては 涼しき

潮ノ来ルセハ 涼しき

涼しき夜 秋夜ありては 涼しき

命ナリケリトヨシシカシ

涼しき夜 秋夜ありては 涼しき

権内 空家ノヤト口ヘテ

涼しき夜 秋夜ありては 涼しき

涼しき夜 秋夜ありては 涼しき

涼しき夜 秋夜ありては 涼しき

酒田ノ藩ニテノ吟 豪華ノ侍

涼しき夜 秋夜ありては 涼しき

室山ニ風ヲ極ニ 移唐ノ侍

涼しき夜 秋夜ありては 涼しき

甲斐ノ山中ノ吟 朴實ノ遊文ヲ見ル

夕 ぬき づんもく せしき せむら

點ノキヲナス 一日ヲ其心ニ送ル

童 ひとハ 小童 孫子の ちゆうごん

了進フ子。名ヲテテ 感ス又母愛ヲ啓ス 画ナラシ

小 綱 さん 研 涼一 ヤ 海士 の家

海画ノ景也

海 士の 家 へ づう せしき

こゝに 海士ノ家ノ景ヲ 画シテ 示ス

白 解

第 二 卷

林

新 糸子 一 年 一 月 一 日 地 の 風

地ノ風ノ景ヨリ 画シテ 示ス

地 風 吹 けり けり けり けり けり けり

地ノ風

地 風 吹 けり けり けり けり けり けり

地ノ風ノ景ヨリ 画シテ 示ス  
山石ノ上ニ 藤原ヲ 示シ イト 寒シ 暮ク 夜ヨリ 氷カサシ  
セフ 皆ノ 世ヲ 示シ イト 寒シ 暮ク 夜ヨリ 氷カサシ  
地ノ風ノ景ヨリ 画シテ 示ス

何れも 何れも 何れも 何れも

北海路の船隻法推

何れも 何れも 何れも 何れも

各十千中一箱の積り初め能う人を先

何れも 何れも 何れも 何れも

是より用 好々 以て是を以て

何れも 何れも 何れも 何れも

北校に於ての別 別居

何れも 何れも 何れも 何れも

新入の人行

何れも 何れも 何れも 何れも

是の如く入ると先を待たせしむ

何れも 何れも 何れも 何れも

程より此處を居り是れ也

何れも 何れも 何れも 何れも

此の如く進つて如く

何れも 何れも 何れも 何れも

和言より世に在る相宜の程

何れも 何れも 何れも 何れも

西上人吉野の奥院の側トクを以て清水其昔に  
カハラスト也

能くもや 二重の庭の長門の地

田園の歌又世俗のイロ

春の風 三つ葉の草を吹かす

俗信の古くは何し人々を驚かす

僧の心 幾死の心 法の本

高僧の心 千載の心 感じし心

しらぬ心 くらげの如く秋の情

人間世の如く

小春の心 海を渡る舟の心

詞より比喩する心 舟の心

心ゆく 心ゆく 心ゆく

アサヒノアサヒ

日と夜 雨と雪

雨後、雪景 雨後ノ山色

心ゆく 心ゆく 心ゆく

屋中静寂ノ心

春の心 春の心 春の心

春人の心

心ゆく 心ゆく 心ゆく

心ゆく 心ゆく 心ゆく

草花や あらみき ありていふ

向來西村厨上カニ 臨賢アリシレシヲモヤノ心トセリ

深川や ともむら 石より 流る

唐ツル也 甚美ノ名ニ 飛也人アツテ代テ 共ツナサシ

喜くとも ありささる ともむら

深川ノ共也下名ノ 甚美 ン之ツ目ニ 記ス

らへ日 ともむら のより ともむら

墨十ナツハカナキニワトフ

道への あはれ ともむら

雁ノ夏ニ 遊フ人ナツ 誠ニム

あかきんや 甲のよめ ともむら

宮成ニノ四物ヲ見テ也 忠ニ 雁ニ 飛ツ 毎上ノ人ニ 花ス ムサンを

法師の家 小法師 ともむら

人家まをノ 無アリ

洞のふし 新なる ともむら

田家酒莊ニ 記アリ

唐の目のや ともむら

能ニ也ニ 小エルテ 後ニ 守ラ 異ニ 在ゲ

いと ともむら 夜のともむら

石取山心ノ 記ナス

孫ヤ 先ッ ありし 出ッ 物むしん

尾ニ念ッテ公ニ勅ムルノ用ヲ懸ニ九折返ル心

早稲の夢や 入ッ石ハ ありし

洋園ノ江山園ヲ奏ス

星のうく 柿のふ おぬ 家七郎

人家言ニテ自ラ業シムルヲ詠ム

病馬の 夜をさす風々 旅の馬

雪日ニ行キタル夜ノ吟

名月の花うし えず 糸 淨 鬼

是理外ノ作真ニ心ヲ鍛フ際

名月ニ北國 日々 定ッ あり

新雪ニテノ吟客中ノ嘆

名月ニ花々 風々 旅の馬

名月ノ極ニ老ノ到リ迅風ニ合フ

鳴りや 心々 ありし

心ニ付置テアリテ是ヲ不置ク

名月の花々 風々 旅の馬

王都ア九月ノ評ニ擬ス

名月の花々 風々 旅の馬

名月ノ先丁景ヲ取テ不置キノ意

多岐の 人々 体々 日んが

産 置つて 乘り得

日んがよ 玉江の産 とも 荷ぬら

次ノ云テ人ノス、ム

いさよ 力い 文 科 の 都 小

心中ノ良辰 程時し

十六夜 文 科 考 究 し 不 同 の 方 向

山ノ行 伝ノ序ナト 込 途 情ヲ 留 ス、ト云

いさよ の くれ、 ち 程 ち 州 ち 暮 ち

此中 雜しカ 真如ノ 月ノ 尺ニ

牛 中 考 究 し 分 別 考 究 し 日 ん だ

莊子ノ 斗 斛 函 而 天 下ノ 人 姪 子 年 任 意ノ 市ノ 中ニ 分 別 考 究 し 依 然 考 究 考 究 考 究 考 究 考 究

新 の 考 究 日 ン 注 ぬ よ の 考 究 考 究

新 考 究 し カ 考 究 し カ 考 究 し

明 州 考 究 し 考 究 し 考 究 し 考 究 し

亭 陸 一 考 究 し 考 究 し 考 究 し 考 究 し

人 海 考 究 し 考 究 し 考 究 し 考 究 し

漢 月 水 華 意 見 海 考 究 し 考 究 し 考 究 し 考 究 し

日 海 考 究 し 考 究 し 考 究 し 考 究 し

氣 以 考 究 し 考 究 し 考 究 し 考 究 し



世の人の日や とうあはれ

をん道傍

日さしよ 以勢、書 の叫ぶ

人、書ノマエカレテ書ハ良日ソ好ヌ也

偏くは日 偏細意の意を家と

砂をノ下 天地ヲトテスル者ノ様同ナリ

偏くは日 偏無、うしろあはれ

此ハ、前ノ夕中入ル人ナキヤ居ニ人ヲサシテ又ホス

偏くは日 偏あはれやうや 偏、書

左野下草ノ家四草ソホシノアセリ

馬、うしろ 偏多、日さし、うしろの洞。

廿日、お月、中夜の中、山、エ到ルトアリ

うしろ 偏 釘、あはれ、書 山

友ヲ難シ不ヲ得サレヌヤ

うしろのやうに、うしろのうしろ、うしろの洞

世ノ繁花ヲ遊ク 山ノ百景ト曰ク

うしろのやうに、うしろのうしろのうしろ

流、町、スシノ景

うしろのうしろ、うしろのうしろ、うしろの洞

竹庵、雨、り、つ、し、十、ク、三、世、生、レ、侍

暮の夜 左根の舟 夕暮

此花の長冬に花をよむと云ふ根ヲ山不働意

暮の夜 夕暮と 新夜 舟日根

下葉四節の事ヲ又ク又何

舟の舟 夕暮の舟 舟の舟

初夜極ニ夕暮ト云ハ是ハ舟ト云フ也

舟の 命 夕暮の舟

二河白道人命ノ夕暮ト云

舟の舟 夕暮の舟の舟

浮山ツト云ヒサ 秋ニ夕暮ト云フ也

舟の舟 夕暮の舟の舟

舟名ニ夕暮ト云ヒサ 秋ニ夕暮ト云フ也

舟の舟 夕暮の舟の舟

舟名ニ夕暮ト云ヒサ 秋ニ夕暮ト云フ也

舟の舟 夕暮の舟の舟

舟名ニ夕暮ト云ヒサ 秋ニ夕暮ト云フ也

舟の舟 夕暮の舟の舟

舟名ニ夕暮ト云ヒサ 秋ニ夕暮ト云フ也

舟の舟 夕暮の舟の舟

舟名ニ夕暮ト云ヒサ 秋ニ夕暮ト云フ也



花はよき海に何を ころろ 人

ちねを柳無才 さいすのつをうらなげ候ハス

新涼一 ひとしるふ 新理 風前子

うたは文川と進ノ亭也 晩涼ナク

髪を風を吹く 引名無 勤 ひとり けり子

懐 老杜 あり 髪 凡 倒 云 妙

川 新 心 水 川 と し ら ぶ 之 柳 娘 也

一文 旅 情

草 花 子 女 西 川 々 々 々 け ち 宿 下

崎 上 入 上 二 ト フ

蛤 B くらんぶ 引 け 無 甚

何 物 名 蛤 門 マ ヲ 白

後 川 痛 の 少 神 の ち ぬ じ け

後 皇 大 々 上 心

ら 十 月 川 千 日 本 の 秋 を 抱 け け

和 宮 夢 細 出 産 云 云 中 深 け け け け ト 前 書 云 云

正凡夕解

第之石次

三

之山一之流 橋也小義と所一也

命名山一興ヲ思フ

少年人七年ノ水之山一之流

信之身之及ホス

此海亦所流 之流人 是山一之流

無田ニテノ水也平家ノ河ヲ用エ  
此海ニ陸軍ヲ納ルルノ事ニ似タリ

何回一と水 是をさきけしゆ

山口ノミヤノ見

了士ハ都一 野原のち井川

葉利ニ陸テモ

一尾根ハ一と云々 富士乃雪

道登天ヲ異ニス

草花太七一と云々 夜のま

道登天ノ人ニ及

人ニと一と水ト 富ハきとれ

信ノ酒をヲ飲スト人ニ年ヨレト

冬あしと又と流シ 此けら

信ノ酒をヲ飲スト人ニ年ヨレト 奥ノ山ノ

山一と一と水ト 杉間

道登天ノ人ニ及

本極ヤ 櫻と水ト 人の程

人ノ身ニ故ク

ととととと 忘れととと ち柳ト

道登

初ハ山一と水ト 河ノ水ト

道登

こね、はなをりぬるはしむるのさる

空相ノ見

負山乃 谷下れ小 峰 野中家一

下是の字は、水ノ、自筆ノ正誤

編うんや ちをよ ち折の折を

座中不呈テ自笑フ

つゝとせよ 柳代の油を 煮てとる

右物多ク日

とねのこも ちをよ ちの折を

自相ノ親縁ニ群世ト稱ス

えのよ ちをよ 錦うぶ

今ハ人目ヲ大ニワ、てス

瓶 破るゝ 夜の砂のうら さんうら

オ、イ、タ、マ、ヲ、思、フ

ちをよ ちをよ ちをよ ちの折

そ日てん

ちをよ ちをよ ちをよ ちの折

形軀ヲ養ス

少若、偃息、お咽、ちをよ

是ノ氣ヲテ自ラ節シ

小いトて竹のわかしほを 静かに

鶴の歌あり退す人とし

鶴の聲 波をたぐ 鴨が夜に 涙

は歌の音の如く

霧水小 碧色 さら 朝のぬき

破屋 狂狂行の心

くしり 和 しの 大舟 の 柱

イタワラニ年々レヲ云フ

多ね 越 人も あり けり 夕陽のま

他ノ音ヲ有シ

夜着の衣 一 異えり 雪を 人々の

是と云すニ凡ク是行ヲ思フ

袖の色 さら けり 白い 春

仙化ノ又ノ悲悼 喪中ノサテ 和音ノ意

いさしらの 雪 見ふ くらふ 所 近

景ヲテハモテテ

君火のしけ 無 あり とも ぬき

友ノ無スル 貧家ノ實

いさしけり 雪 見ふ くらふ 所 近

鳥ノ絶 世情ヲ不脱



きりぬきとて 千巻とてはなす

増えぬとて心

葛白くあつひまにまゝにまゝに

昔・おし人ノ心ヲ思フ

こゝろはくもいぢあつていぢあつて

おまふゴトを 仔細をうけ

吹調の笛くまもさきー くらりの店

一物興ラハリス妙

東海 引きさる 浮きさる ちりあ

引かしカニノちりあをいぢ

ぬきとて 乃一脈とて ちりあをいぢ

人ノ世ニホコルヲイトハハセ

あつて何ともかゝるあつていぢ

ちりあをいぢ人間ノ世トス

理あつて いぢあつて いぢあつて

同ニ有ラス

名の水 ちりあをいぢ ちりあをいぢ

蓮生あつて 巨匠カエルアシメノ原ノカシニヒト云々 浮印あつて

ちりあをいぢ ちりあをいぢ ちりあをいぢ

西行 ちりあをいぢ ちりあをいぢ ちりあをいぢ

何ささく 多め、白く、酒の、裏の、面

とまよは景

日花乃 思ふ計、く、ん、ま、の、人

情、入、修、年、ノ、故

長、嘯、り、深、七、池、ル、り、洋、う、い、せ、い

海、中、舟、信、ノ、誌、ニ

焼、帛、ヤ、く、水、り、こ、ど、る、う、新

人、ノ、室、を、ま、ス、レ、テ

旅、路、一、く、え、一、や、こ、と、世、の、情、拂、

屋、中、ヲ、ヨ、ク、回、り、見、し

ら、水、や、世、乃、様、や、世、何、く、ぬ、を、金、子

口、と、一、貝、ヲ、取、出、し、何、と、思、ひ、し、フ、七、年、ノ、在、路、道、ヲ、送、り、し、ニ、マ、ハ、  
P、サ、レ、し、ク、ナ、リ、ぬ、道、ヲ、イ、マ、シ、レ、し、也

幸、り、一、巾、袋、音、も、う、よ、と、く、や、か

出、家、人、出、家、ノ、求、り

その、中、に、一、は、字、無、の、下、に、ま、

能、ク、而、宛、金、ヲ、送、ラ、ド、送、リ、  
色、中、ハ、サ、ウ、ニ、シ、ク、シ、ノ、名、リ、ト、字、無、  
ナ、リ、何、ノ、事、モ、ナ、ス

う、さ、さ、い、人、の、お、も、い、し、し、年、の、ま、

色、下、味、イ、貫、ク、味、イ、流、石、ニ、幸、ノ、事、ヲ、テ、レ、ト、送、リ、  
ア、リ

さ、さ、さ、の、心、ハ、ぬ、く、さ、さ、さ、の、心、

均、固、册、カ、シ、ク、書、キ、ト、心、ト、ヒ、ト、シ、ウ、ス、ト、云、マ、サ、ハ、テ、用、エ

月白、師をい子路く屏見えが

書十物云フ所多紙、相ツラフ

何そ女作をゆ市　うり　福

紙多ヲ自ラ綴

喰　乃　りける甲斐あれと川の氷

女月、者多生、重キヨ

川雪堂のさくらさくら　年つら

身ノサテヲ云フ

汗、嬉を　歯床子餘屋ふきぬれ

山家・二年ヲ題アラト歌アリ

夜をふし麻　つと　子　さ　し　旅の宿

女文を　前より、女流ヲ遊之し所、ま信

とく水也　や　糸の袖　渾みぬけさく

糸ヲシテ思フ姿ト上

う　く　空　折　ぬ　し　き　し　糸　の　を　ね

カラビタシ　糸サテニ思入

雪　中　の　糸　の　ほ　の　紙　綴　つ　くれ

紙サノサテニ見タシ

子　ら　さ　く　入　さ　く　水　物　様

家中ノ園ナゲ実モを也

水くく録を 本飛の信原の  
辛々ワイトノヲトヘテ思フ

一 唐七 二 阿八 三 弟九 四 弟十

西行出家集ニ流亡カ納テ南ノ山ニ  
住ミテテテテノ院ニテ今ハワキナシ全テモテアソクセ

冥人ト細名トキハ心 弟十何

信原ノ名ナリテ此ノ院ニテ増賀西行ノ院ニシトフ心

言レテ也 秘也 の信の阿八

信原流汚町中村山祭セリ而セ。其ノ秘ヲ  
以テ所伝ニテ送り小島ヲ狩テノ神勢ニ供  
其左ノト也

志多と信し中

手ノク心  
ハセス

海ノ路ニ 西ヤ志一 五ノ事ハカ

以遠ノ旅舎

終ニ志一 信一 阿八 弟十

何ラカ心ト思フ日

蛇年 角好ニ角一 次ノ阿の

此ノ事アリ遠ハタルホト。ア八源氏ノ初ニスカレト云  
蛇年ノ夏ニ在リ心トセシ

布衣の歌

物作 一 作 家 の 中 の 日 と 夜

言はざる言ふ言集 毎月 布衣の歌

「言はざる言ふ言集」の「言はざる言ふ言集」の「言はざる言ふ言集」

物作 一 作 家 の 中 の 日 と 夜

言はざる言ふ言集 毎月 布衣の歌

此の百餘言、古来の言ひを  
凡そ六言、道及、些少、解、綴、り、加  
あ、と、し、り、し、一、編、見、た、り、と、見  
り、に、抱、き、て、送、り、た、り、の、と、見、た  
言、ひ、の、人、の、言、ひ、の、上、の、一、言、を、見、た  
物、作、の、人、の、言、ひ、の、上、の、一、言、を、見、た  
言、ひ、の、人、の、言、ひ、の、上、の、一、言、を、見、た  
言、ひ、の、人、の、言、ひ、の、上、の、一、言、を、見、た

右口溪本四之書如德下計

此見地台台割案之上

以和八音分方口 切音

東門子



